

文政十一年 足軽海岸廻帳

凡例

一 本書は、文政十一年（一八二八）の常陸国久慈郡田中々村郷士大内勘衛門達直の記録「足軽海岸廻帳」（日立市郷土博物館収蔵 日立市大和田町大内寧家文書 208 小横帳）を翻刻したものである。

二 水戸藩の海防政策の一環として川尻村に異国船見張番所が設けられ、郷士の大内勘衛門らが定詰となり、その配下に郷足軽が配属され見張番についた。本記録は郷足軽のいわば出勤簿であるが、来客など日常の出来事も記録している。

三 翻刻にあたり次のように取り扱った。

- (一) 読点「、」並列点「・」は編者による。
- (二) 漢字は常用漢字を用いたが、一部正字用いた。
- (三) 使用した符号は次のとおり。

(一) 編者による補足・訂正・註記
「」 表紙・朱書の部分

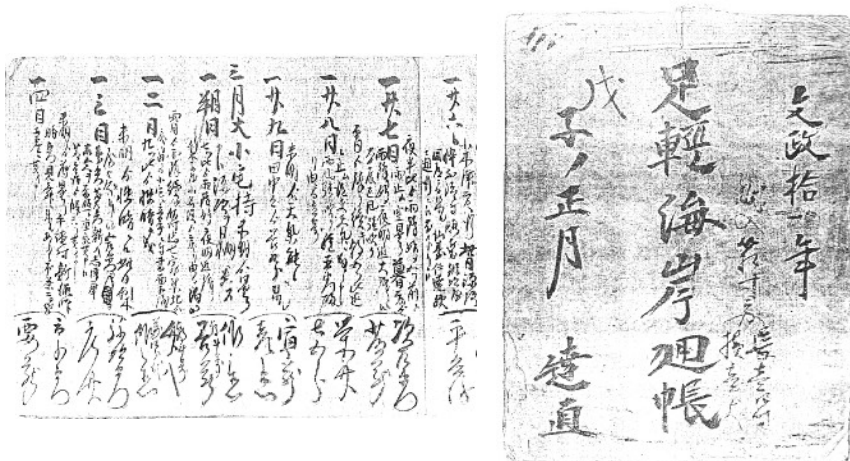
□ 虫損などにより判読不能文字、字数を確定できないときは「」によって示した。

■ 削除 判読できなかった文字
常陸
磐城 訂正 見せ消ち
ミミ (磐城と書いたものを常陸と訂正)

(四) 助詞の者・而・茂・江・与・而巳は、漢字のまま文字を小さくして示した。

(五) 合字の方・鷹はそのままだに示した。

本書は二〇〇八年日立市郷土博物館「水戸藩の海防史跡をたどる」展開催のために古文書学習会が解説したものをテキスト化したものである。筆耕は会員の赤津俊明がおこなった。



(表紙)
「文政拾一年

附入箱寸法長老四寸

横老 尺

足輕海岸廻帳

戌

子ノ正月 達直」

目出度始リ

正月大

一 十六日 在所^{*}方帰宅^{*}致候

一 十七日 未明方曇り空ニ而八ツ頃方雨雪

交リ降り申候

月番

一 十八日

未明方天气能候、日棚村倉太田中々

方歸リニ而立寄、尤源左衛門同道ニ

候、志津鷹娘土木内方来ル

友部庄や来ル

一 十九日

未明方快晴ニ候、忠兵衛大田筋へ行

趣ニ而届ケ有リ申候、尤四五日も掛

由ニ候友部^{*}庄や来ル

一 廿日

未明方快晴ニ候

五左衛門方餅貫イ申候

一 廿一日

七五郎 蔵

未明方天气能候、大地震老度ユル、
檜村^{*}来ル

一 廿二日

未明方天气能候、陣之平方野火出、
宝幢寺^{*}へ火迫リ成候故大キ騒キ、
大勢ニ而消シ申候

一 廿三日

未明方快晴ニ候

小宅氏河原子へ年始へ行、一宿致由

ニ候而翌日戻リ申候

一 廿四日

未明方快晴ニ候、小木津村重兵衛後

職新八エ足輕被仰付候由ニ付役人同

道ニ而来ル

一 廿五日

未明方天气能候、新八ヲ彦八郎同道

ニ而来リ、尤酒土産ニ貫イ候、忠兵

衛来ル

一 廿六日

未明方天气能候

小木村船庄屋^{*}次衛門来ル尤倅新八祝

二付呼ヒ来ル

註

*在所…大内勘衛門の住い、久慈郡田中々村。

*帰宅…帰宅とは勘衛門が詰める異国船見張番所のある川尻村の役宅に戻ることに。

*日棚村…常陸国多賀郡。北茨城市

*大田…常陸国久慈郡太田村(常陸太田市)

*友部…多賀郡友部村(日立市)

*檜村…友部村の郷土檜村所衛門か。

*宝幢寺…宝幢寺。真言宗。多賀郡川尻村(日立市)。友部村法鷲院末寺。天保期

水戸藩の弾圧により廃寺。現在の蓮光寺にあつた。

*小宅氏…那珂郡菅谷村の郷土小宅権之丞

のことか。大内と共に川尻番所に交代で

詰める郷士。

*河原子…多賀郡河原子村(日立市)

*小木津村…多賀郡。日立市

*船庄屋…舟庄屋とも。漁村におかれ、庄

屋の下で漁業行政全般を行う。

市郎衛門 庄介

萬四郎 弥次衛門

善八 蔵

要蔵 吉郎衛門

栄介 次左衛門

七五郎 蔵

二付呼ヒ来ル

未明方天气能候

小木村船庄屋^{*}次衛門来ル尤倅新八祝

二付呼ヒ来ル

未明方快晴ニ候

五左衛門方餅貫イ申候

友部^{*}庄や来ル

忠兵衛大田筋へ行

趣ニ而届ケ有リ申候、尤四五日も掛

志津鷹娘土木内方来ル

友部庄や来ル

日棚村倉太田中々

一六日

未明方薄曇り、此日北宿之躍り、笠貫宝幢寺ニ而躍申候、直衛門来ル、鉄炮■届袋久、九ツ頃方快晴ニ成ル

介八
朝計寄
萬四郎

一十一日

明ケ方方雨止ム、志津磨田中々エ■娘暇貰イニ行

要七
要次郎通番
弥次衛門

新八
吉衛門

*石浜村…多賀郡伊師浜村(日立市)
*湊磯…常陸国那珂郡湊村(ひたちなか市)と鹿島郡磯浜村(東茨城郡大洗町)
*小木津村…多賀郡。日立市

一七日

未明方快晴ニ候、直衛門荷物為持、源次石町庄次衛門へ渡ス、石濱村へ長式間計之クジラ寄り候由承り候

弥次衛門代
要次郎
庄介

一十三日

未明方快晴ニ候、小木津村*・石濱村足輕共へ年始ニ相廻り候、廻船沢山北方南へ通り申候

藤左衛門
彦八郎

一八日

未明方天気曇り申候、此日友部へ年始ニ行、茶食之馳走ニ成り申候、七ツ頃方雨少々降り始メ明ケ方迄ニ止ム、湊磯等之獵船沢山廻り来り申候

市郎衛門
要蔵

一十四日

未明方薄曇り、八ツ頃方雨降り始メ大雨ニ成、其上辰巳風強ク吹キ、夜八ツ頃方雨風止ミ申候、志津磨帰宅致候

平兵衛
藤蔵

一九日

未明方曇り、終日不晴候、尤夜四ツ頃方雨降り始メ候、此日五左衛門頼母子ニ付源次手伝ニ遣シ申候

吉郎衛門
清三郎

一十五日

宵方降続、五ツ頃方雨止ム、■曇り空ヲ終日不晴、夜五ツ頃方降初メ明方迄降り

栄次郎
兵蔵

未明快晴ニ成候所俄ニ曇り大雨降り来り、其上波立ニ候、乍去五ツ半頃方天気ニ成ル

次左衛門
朝計寄
栄介

田尻濱ニ躍リ有リ申候

一 十六日

七五郎
朝計リ寄
貞藏代
善藏

未明方薄曇リニ候、終日不晴、日棚
村倉太、梨屋等寄、大田村釜屋弥次
左衛門石町行由ニ而立寄、田尻濱ニ
躍リ有リ申候

我等月番
一 十七日

彦之丞
作之丞

未明方天气能候、田中々へ行由ニ而
榎村立寄申候、飯村忠七岩城へ馬買
イニ行由ニ而立寄候

一 十八日

善藏通番
貞藏
介八

未明方薄曇リ、小宅河原子行、一宿
致候、終日薄霧ニ而沖相不見エ

一 十九日

萬四郎
弥右衛門代
要次郎

未明方霧深ク沖合不見エ、四ツ頃
方霧晴申候、八ツ頃方曇リ雷少々
鳴、氷降ル、尤少シ候、小宅河原
子方帰宅、榎村モ同道ニ帰り候

一 廿日

市郎衛門代
要七
庄介

未明方天气能候

一 廿一日

要藏
吉郎衛門

未明方快晴、四ツ頃方空ヲ薄曇リニ

成ル、七ツ半頃方降来リ、夜五ツ頃
快晴ニ成ル、夜何時頃歟不知候得共
雷雨ニ而大雨降り来リ申候

一 廿二日

清三郎
兵藏

宵之雨降続キ大雨ニ候、大波立、海
荒レ申候、終日雨降り申候、西風強
ク夜明迄吹ク、廻船老艘掛リ申候

一 廿三日

栄次郎
要次郎

未明方天气能候、此日友部へ米取ニ
源次ヲ遣ス、北風吹、忠兵衛来ル、
五左衛門来ル、日棚之倉太源藤寺ノ
荷付介川行由ニ而寄り申候、牛房ト
いも持参

一 廿四日

要七へ通番
市郎衛門
新八

未明方曇リ、五ツ頃方雨降り始メ小
頭忠兵衛水戸へ行く、四ツ半頃方雨
止ム、乍去終日曇リ申候

一 廿五日

吉衛門
藤左衛門

未明方曇リ、四ツ頃方空晴レ申候、
異船見へ候節篝ヲ焼候真木ヲ付来
リ、御藏之前へ積置候、北風吹キサ
ムキ事寒中ノゴトシ

* 田尻浜…多賀郡田尻村の浜辺集落
* 源藤寺…源東寺。多賀郡日棚村にある曹
洞宗寺院。

一 廿六日

未明方天气能候、此日小宅小木津方へ行、此日源次悴不法ニ付暇罷出鍛次屋同道ニ而来ル、仙臺伊達様通行ニ候、尤下リニ候

彦八郎
平兵衛

一 三日

リ由ニ而小宅へ立寄ニ付書面相渡ス、九ツ頃方快晴ニ成
未明方快晴ニ候、此日梨屋戻リ候、五左衛門ヨリ重ヲ・市郎衛門・藤左衛門・新八・志津摩□五人ヲ赤飯一ト重宛貫申候、藤兵衛方餅六ツ貫イ申候

弥次衛門
庄介

一 廿七日

夜半頃方雨降始メ、五ツ前ニ雨止ム、空曇リ、暮方方雨降り始メ、夜明迄大降りニ候、尤辰巳風強吹ク

次左衛門
藤蔵

一 四日

未明方薄曇リ、手繩村^{*}新獵師勝衛門見舞ニ来ル、あ□ぼ茶ニタ袋土産ニ貫イ候

市郎衛門
要蔵

一 廿八日

宵方降り続キ朝五ツ頃迄ニ止ム、従夫天气ニ成リ申候、西風強ク吹ク□直衛門帰り由ニ而立寄

栄介
七五郎

一 五日

未明方空曇リ、五ツ頃雨少々降り来リ無間止、七ツ頃方大雨ニ成、此日所衛門来リ暮ニ及帰り候、此日御鹿狩有リ申候

吉郎衛門
清三郎

一 廿九日

未明方天气能候、田中々方善次郎来ル

寧蔵
彦之丞

三月大 小宅持
一 朔日

作之丞
朝計寄
善蔵

一 六日

未明方曇リ申候、源次ヲ日棚へ遣ス、七ツ頃方雨降始メ夜明迄降り、梨子屋小名濱方戻リ由ニ而泊リ候

未明方大曇リ、四ツ頃方雨降り始メ、終日大雨、夜ニ入而も降り、夜九ツ頃方あカリ候

栄次郎
兵蔵

一 二日

宵方雨降続ク、飯村忠七家来北方戻

朝計寄
介八
萬四郎代
作之丞

一 七日

未明方快晴ニ候、足軽矢場初メ申候、七ツ頃方大曇リニ相成候、夜段

要次郎通番
弥次衛門
要七

*手繩村…たんなむら(丹奈村とも)。田中々村の北方にある。久慈郡。天保十三年(一八四二)南隣りの大森村に編入。常陸太田市。

々晴レ申候

一 八日

未明方天气能候、源次友部へ米取ニ

新 吉衛門

宵方雨降続キ終日夜入迄降、夜半方止ム

朝計寄 彦之丞

行

一 九日

未明方天气能候、小木津村山追ニ付

藤左衛門 彦八郎

一 十四日

雨止ミ從夫空大曇リ、終日不晴、此

善 朝計寄 介 八 藏

参り候、猪老ツ出ル、彦八郎・藤藏

等見物ニ出ル、日棚村倉太米賣之儀

ニ而立寄

一 十五日

十四日夜八ツ頃方雨降り始メ終日雨

萬四郎 弥次衛門

一 十日

未明方霧少々有リ、空薄クモリニ

平 兵衛 藤 藏

月番 一 十六日

降り申候、尤夜入五ツ半頃雷少々鳴成ル

庄 市郎衛門 介

候、終日不晴候、金井下釜屋弥七石町へ行由ニ而立寄候、夜半頃方雨降り初メ申候

一 十一日

次左衛門 朝計寄 栄 介

一 十七日

未明方快晴ニ候、此日方足輕稽古始メ申候

要 吉郎衛門 藏

宵方雨降り続キ夜入迄不止、御鉄砲之カ古鋌式本、地板ノ鋌、矢筈鋌等ヲ源次細工致候

志津摩方ヒラメ貫イ候

一 十八日

未明方曇リ、終日不晴、兵書ヲ栄次郎頼ミ在所迄届ケ申候

清 兵三郎 藏

一 十二日

七五郎 朝計寄 寧 藏

一 十九日

未明方大曇リ、九ツ頃方快晴ニ成候

栄 要次郎 次郎

未明方天气能候、終日九ツ頃方薄曇リ、夜ニ入雨降始メ

一 十三日

作之丞代 寧 藏

一 廿日

未明方薄曇リ終日曇リ申候、トビノクロヤキ在所ヨリ届ク

要 新 八七

*金井下…太田村

一 廿一日 未明方天气能候得共薄クモリニ候、
庄介義伯父不幸ニ付稽古ニ不出候

吉衛門
藤左衛門

一 廿六日 リ申候

作之丞
善藏

* 黒沢彦兵衛…郷士
* 榎村所衛門…友部村の郷士（『十王町
史 通史編』）

未明方大曇リニ■而九ツ頃方大雨
降来リ、夜ニ入り七ツ頃迄降り止、
風吹き申候

友部町雨天故立不足

彦八郎
平兵衛

一 廿七日

介八
萬四郎

宵方之空合ニ而大曇リ、四ツ頃方雨
降り始メ終日降り夜入而も不止、

□

□能芝居友部ニ来リ兩日休ニ申候

藤藏
次左衛門

一 廿八日

弥次衛門代
要七
庄介

一 廿三日 宵日曇リ続ニ而四ツ頃方雨降り来リ
夜ニ入迄降ル、源次友部へ行昼飯之
馳走成ル、帰ル

一 廿四日

栄介
七五郎

一 廿九日

市郎衛門
要藏代
要次郎

未明方快晴ニ候、此日友部ニ芝居有
リ、市廻リニ照沼甚衛門来リ由、小
宅友部行ク

此日武藤氏書面届

一 晦日

吉郎衛門
清三郎

一 廿五日

貞三通番
作之丞
彦之丞

(四月)

一 朔日 小宅番

兵藏
栄次郎

未明方天气能候、八ツ頃方大曇リニ
成ル、友部ニ芝居有リ、小宅見物ニ
行、此日小貝へ□発ニ行、直衛門泊

未明方快晴ニ候、石町鐘ヲ鑄仕舞ニ

而戻リ之由ニ而大田金井下弥七立寄
リ申候

一 二日

未明方天气能候、此日友部へ源次米
取ニ行、終日夜入而も曇リ空ニ候

要七通番
弥衛門
要次郎

一 七日

未明方大曇リ、朝食過キ方雨降り始
メ夜入迄大雨候、庄三郎戻リ申候、
在所方茶届

寧藏代
朝夕寄
新八
朝計寄
七五郎

一 三日

未明方大曇リ、四ツ頃方雨降り始メ
七ツ頃方大雨ニ成、夜ニ入而もふ
り、八ツ頃方止
善九郎味噌持来ル

新八
吉衛門

一 八日

未明方天气能候得共終日中曇リ候、
小林次郎大郎立寄

朝計寄
彦之丞
朝夕寄
作之丞

一 四日

未明方天气ニ候得共朝霧深候、従夫
曇リ八ツ半頃方晴レ申候

彦八郎代
藤藏
藤左衛門

一 九日

未明方天气能候得共終日薄曇リニ候
此日源次友部へ米取ニ行、志津摩方
キスモライ申候

善藏
朝計寄
八

一 五日

未明方快晴ニ候、^{*} 釈迦堂庄三郎日棚
へ行由ニ而寄、越下地引等ニ而ユ
ハシ沢山取、大はモ耆本買イ候

藤藏通番
彦八郎
平兵衛

一 十日

未明方天气能候得共大曇リ、終日不
晴候、越下ニ而鰯トレ申候、志津摩
方ユワシモライ候

弥次衛門代
朝夕寄
清三郎
朝計寄
萬四郎

一 六日

未明方天气能候得共沖合朝之内霧
少々有リ申候、尤四ツ頃方快晴ニ成
ル、庄三郎日棚方戻リ一宿致候、鰯
大取レ

次左衛門
朝計寄
栄介

一 十一日

未明方快晴ニ候、ユハシ取申候、在
所方はんぶん届ク、竹子式本来ル、
れんて^{*}ヲ買候

庄介代
弥次衛門
市郎衛門

* 釈迦堂…久慈郡釈迦堂村（日立市）。天保期に神田村と水戸藩によって改変される。田中々村の南にある。
* れんて…エイの一種。那珂湊や久慈でもいう（浅野長雄「茨城県海産魚類の方言について」）。

一 十二日 未明方快晴ニ候

要 蔵
吉郎衛門
清三郎
兵 蔵

一 十八日

次左衛門代
栄 介
藤 蔵

一 十三日 未明方快晴ニ候、□□能芝居翁渡し
有リ、尤川尻鎮守セン宮ニ付芝居有
リ

一 十九日

栄 介
七五郎

一 十四日

要次郎通番
要 蔵
栄次郎

未明方薄曇リ、四ツ頃方快晴ニ成、
此日モ芝居有リ申候

一 廿日

貞蔵代
吉衛門
彦之丞

一 十五日

新八通番
貞 蔵
朝計寄
要 七

一 廿一日

作之丞
善 蔵

未明方大曇リ、九ツ頃方晴レ申候、
此日モ芝居有リ、砂子^{（ツマ）}沢忠三郎方蒸
菓子貰イ申候

一 廿二日

介 八
萬四郎

我等月番
一 十六日

吉衛門
藤左衛門

未明方曇リ、海表霧而深候、尤九ツ
頃方雨降り来リ夜明迄降り続ク、異
船壹艘河原子沖陸方六里程沖ニ見エ
申候由

一 廿三日

弥次衛門
庄 介

一 十七日 宵方雨降り続キ申候、尤地引出候、
四ツ頃方天気上リ候得共空不晴候、
終日曇リ申候

彦八郎
平兵衛

未明方薄曇リ、沖合ハ霧谷^{*}深ク海上
不見、四ツ頃方霧ハレ申候、佐野氏^{*}
十九日仕出書面廿三日朝届ク、昼海

* 砂子沢…多賀郡砂沢村（日立市）。川尻
村の西方の山麓の村。
* 霧谷…もやと読むか。
* 佐野氏…川尻番所の海防指引（指揮官）
を務める佐野七郎兵衛のことか。
* 兼子忠兵衛…川尻村の廿分一改役、かつ
郷足軽世話役兼小頭（『新修日立市史
上巻』）を勤める。

岸小貝臺へ兩人遣ス、雷雨ニ而大降
リ、左馬之介来ル

未明方雨天ニ候、八ツ頃方雨止候得
共空不晴

*左馬之介…大内勸衛門の子。

一 廿四日

未明方快晴ニ候、此日佐野持場見廻
リ参リ候由之先触故足輕共迎ニ出申
候

市郎衛門
要 蔵

一 廿九日

宵日雨止候方曇リ続キ、朝雨降り来
リ候、無間も止ム、^〇四ツ頃方快晴
ニ成、佐野氏帰陣

平兵衛
藤 蔵

此日左馬之介友部へ行、源次米取ニ
行

五月大 小宅月番
一 朔日

次左衛門
善 蔵

一 廿五日

未明方薄曇リ、四ツ頃方晴レ申候、
又候七ツ半頃方曇リ申候、足輕鉄炮
見分有リ申候、左馬之介帰宅致候、
伊東忠大夫来リ泊ル

弥次衛門通番
庄 介
吉 衛門

一 一二日

未明方曇リ終日不晴候、地引沢山ト
レ候、夜ナカ之頃方大雨降始

萬四郎
寧 蔵

五左衛門方ぶり半身貫、南町若者方
ふり巻本モライ候

一 一三日

従夫降続キ終日不止、此日鑄法之書
写シ始メ候

彦之丞
朝計寄
介 八

一 廿六日

未明方曇リ、八ツ頃方雨降り始メ、
此日石濱ニ而足輕会致候

兵 蔵
栄 次郎

一 廿七日

未明方大キニ霧ニ而近所迄不見、四
ツ頃方霧晴天氣ニ成ル、又候七ツ頃
方大曇リニ相成候、伊東忠大夫帰宅
ニ成リ候

要 次郎
要 七

一 四日

未明方薄曇リ、五ツ半頃雨少々降リ
来リ、早速天氣ニ成申候、柏モチ十
五衛門方貫イ志津磨方モ貫イ候、又
五左衛門方葱ととふふモライ候

萬四郎
朝計寄
弥次衛門

一 廿八日

藤左衛門
彦八郎

一 五日 市郎衛門代 要七 庄介

未明方大曇リ候得共雨不降故友部へ志津摩卜行、従夫砂沢忠三郎宅廻、九ツ頃方帰宅致候、尤七ツ頃方雨降始メ、尤夜中ハ大方強キ雨ニ候

一 六日 要蔵 吉郎衛門

宵日方降続キ小雨ニハ候得共終日不止、此日梶清次衛門*麦作見分通行ニ而折笠村昼食之由承リ候得共、他村故見舞不行

(上欄外書人) 梶氏通行之儀六日江認候所七日ニ通り候

一 七日 清三郎 兵蔵

未明方大曇リニ而四ツ前少々雨降り、従夫雨止ム候得共空不晴、大津浦へ異国船見へ候趣西丸方申来リ申候

一 八日 栄次郎 要次郎

宵方雨降り続キ終日不晴、角板御城下ヨリ届ク、八ツ頃方大雨降り始メ夜明迄続ク

一 九日 要七通番 市郎衛門 新八

宵方雨降続夜ニ入七ツ頃迄ニ止、大雨故水沢山ニ而五左衛門前通方宿通

リ餘程之内水上ケヒサノ上ニ而往来イ致、折笠宿前岩大キニクツレ申候、石濱ニ而ジャクヲチニ而人ヒシカレ死ス、忠兵衛来ル

土木内方状届ク

一 十日 吉郎衛門通番 寧蔵 藤左衛門

夜七ツ頃雨止ミ天氣快晴成リ候、此日源次友部へ行、九ツ頃ヨリ空曇リ八ツ半頃方雨降り来リ申候

一 十一日 彦八郎 平兵衛

未明方曇リ、四ツ頃方晴レ候、七ツ半頃方曇リ、夜入八ツ頃方雨少々降り、六ツ頃止、此日小麦ヲ蒔申候

一 十二日 藤蔵 次左衛門

未明方大曇リ、五ツ頃方大雨降り来リ、終日不止候、夜入雨止ム

一 十三日 栄介 七五郎

未明方天氣能ク候得共薄曇リ候、尤四ツ頃方快晴ニ成申候、志津摩ヨリカラ蕎麦貰候、源次畠エ手入申候

一 十四日 寧蔵 彦之丞

未明方天氣ニハ候得共終日薄曇リニ候、此日モ島ケへ手入、尤茄子苗ウエ候

*梶清次衛門…水戸藩石神組郡奉行。郡奉行所は那珂郡石神外宿村から文政七年七月に多賀郡金沢村に移転している。

一 十五日

未明方天気候得共朝之内ウスクモリ
ニ而九ツ頃方快晴ニ成

作之丞
善蔵

未明方快晴ニ候、源次、五左衛門へ
田植手伝ニ遣ス、河原子ニて初鯉沢
山ニ釣揚候、沙汰承リ候

新八
吉衛門

月番
一 十六日

未明方天気候得共薄曇リ□□□尤七
ツ頃方少雨降始メ、夜入□雨ニ而翌
日迄降り続ク、流網獵沢山有リ

介八
萬四郎

未明方大曇リニ候得とも霧不申候、
此日も源次、五左衛門へ手伝へ遣シ
申候
此日庚申アリ

藤左衛門
彦八郎代
平兵衛

一 十七日

宵日方雨降り続キ八ツ頃方小雨ニ成
候、夜入而も天気不上ウ、流網獵三
百本位取

弥次衛門
庄介

未明方薄曇リニ候、流シ網沢山ニア
リ、此日五左衛門へ源次ヲ手伝ニ遣
シ候

藤左衛門
彦八郎代
平兵衛

一 十八日

宵日方降り続ニ而小雨ニ候、尤四ツ
頃方止候得共終日不晴

吉郎衛門
要蔵

一 廿四日

未明方曇リ、五ツ半頃方雨降始メ申
候、終日少々宛降ル

平兵衛通番
彦八郎
藤蔵

一 十九日

未明方大霞ニ而海中更ニ不見、九ツ
頃方少々霧晴候得共遠沖ハ不見、夕
方大雨降ル

清三郎
吉郎衛門

兵蔵
栄次郎

一 廿五日

未明方天気能候、所衛門来ル、源次、
五左衛門へ手伝ニ遣ス
在所へ書面ヲ遣ス

次左衛門
栄介

我等廻リ
一 廿一日

要次郎
要七

未明方大曇リニ候得共不降、尤夜入
降り始メ夜中明ケ迄降り続キ候、源
次手伝ニ行
五左衛門方初鯉ヲト切貫イ候

一 廿六日

未明方雨降申候、尤九ツ頃雨止候得共大曇リニ候、源次、五左衛門手伝ニ行

七五郎 寧藏

六月大 小宅持 朔日

未明方天气能ク候得共、曇リ空テ四ツ頃方快晴ニ成ル、夕方ニ成薄曇リニ成候

要藏代 要次郎 吉郎衛門

*後藤友衛門…茨城郡見川村庄屋。のち郷士

我等廻リ 一 廿七日

未明方快晴ニ候、五ツ半頃方曇リ候、八ツ頃方俄ニ雷懸リ候得共、少々鳴雨暫ク之内降ル

彦之丞 作之丞

一 二日

未明方天气能候、四ツ前霞ニ而沖合不見、霞晴レ而も薄曇リ、八ツ頃方快晴ニ成ル

清三郎 兵藏

一 廿八日

未明方快晴、五ツ頃方クモリ候得共、夜五ツ雨降り初メ明迄フリ申候田中々方弥八郎金毘羅参詣之由ニ而立寄候、手紙ヲ遣ス、所衛門来ル

善藏 介八

一 三日

未明方天气能候得共、九ツ前霧ニ而沖合不見候、従夫快晴ニ成、此田(日脱カ)中々方之封物届ク、後藤友衛門方書物帰ニ成ル

栄次郎 要次郎へ通番 要藏

一 廿九日

宵方降続ニ候、五ツ前方雨止候得共終日大曇リニ候、暮方方降り始メ申候、尤小雨ニ候、本田殿通行ニ候

萬四郎 弥次衛門

一 四日

未明方快晴ニ候、此日畠へ手入申候

新八 要七

我等廻リ 一 晦日

未明方大曇リ、五ツ半頃方降り始メ申候、止ミ降り来リ終日夜ニ入迄降り続キ候七ツ頃辰巳之沖合ニ而大筒音三ツ程ナル

庄介 市郎衛門

一 六日

未明方霧深ク沖合不見、五ツ半頃方キリハレ申候、四ツ頃方雷雨ニ而大降り、雷少々鳴ル、従夫晴レ、亦々八ツ頃方雷鳴ル、夫モ晴レ、亦々暮方亦々雷少々鳴ル、雨大キニ降ル

彦八郎 平兵衛

吉衛門 藤左衛門

一 七日

未明方大曇り候得共雨不降北風吹
久、源次十王川へ投網打ニ行ク、ア
ユ四ツトリモトリ候

藤 蔵
次左衛門

候得共空曇り八ツ頃方少雨降り、夜
ニ入雨降、雷少々鳴ル、明迄降り
続、蕎麦打申候

一 十三日

宵方降続キ、五ツ頃止候得共空曇り

市郎衛門
要 蔵

一 八日 此日方土用

未明方天氣能候得共薄曇り終日不晴
レ

栄 介
朝計寄
七五郎

一 十四日

未明方天氣能候、尤雨四ツ頃方薄曇
り成ル、八ツ頃空ニ少々一寸ノ内雨
降ジキニ止、小宅足輕具足式拾領虫
干致候、尤手伝作之丞・貞蔵二人ナ
リ

清三郎
吉郎衛門

一 九日

源次ウナキツリへ出、老本ツリ来ル
未明方天氣候得共薄曇り、八ツ半頃
方晴レ申候

寧 蔵
朝計寄
彦之丞

一 十五日

未明方宵方雨降り続キ四ツ頃迄降
ミ、
リ止、終日曇り申候、北風吹ク

兵 蔵
栄次郎

一 十日

未明方薄曇り、終日空不晴、源次石
臼ヲ引申候、乍去リ式升之小麦引餘
り、通船^{*}南方北へ沢山とヲり候

作之丞
朝計寄
善 蔵

月番 我等廻り
一 十六日

未明方曇り、九ツ頃方小雨降来り次
第二強成、夜ノ八ツ頃迄降ル

要次郎
要 七

一 十一日

未明方天氣能候、藤左衛門地引ニ取
ル、大船掛ケ居り候、薄霧ニ而遠沖
不見候、八ツ頃方雷ノ模様有リ、又
霧沢山来り

介 八
朝計寄
萬四郎

一 十七日

未明方曇り、五ツ頃方空晴候得共白
キ雲出候、七ツ頃方雷、晴ニ而雨降
ル、雨止而も曇り居り候

新 八
吉衛門

一 十二日

未明方大霧ニ而足本モ不見程、霧晴

弥次衛門
庄 介

一 十八日

未明方曇り、八ツ頃方空晴レ、従夫
亦曇り、雷少々鳴ル、左馬之助来ル

藤左衛門
彦八郎

*通船…「かよいぶね。河川、港湾などで
適宜連絡に用いる小船」(日国)とされ
るが、ここでは商品を輸送する海船の総
称である廻船をさすか。

一 十九日

未明方快晴二候、足輕具足虫干致候、手伝善藏・七五郎ナリ

要次郎方あはひ五はい

藤藏二千鯺鮓貫イ

平兵衛 藤藏

未明方大曇リニ而四ツ頃方雨降り始メ終日不止、夜二入而モ降ル、鉄炮研、市郎衛門・要次郎

一 廿五日

市郎衛門 要藏

一 廿日

未明方快晴二候、虫干致候、手伝栄

次郎・吉郎衛門、南方通船沢山通

ル、作之丞方ふり老ト筋、直酒式合

程貫申候

栄介 七五郎

宵方雨降り続キ夜入迄降り候得共不止、五左衛門来リ、南大谷川堀ニ付公儀方御役人鉾田へ罷出、旅宿ニ而見分致候由之咄シ承リ申候*

土用明キ 一 廿六日

吉郎衛門 清三郎

我等廻リ

一 廿一日

未明方快晴二候

左馬之介帰宅致、小常濱(名カ)之船鯨三十

本初而釣

一 廿三日

未明方薄曇リ、終日不晴、此日渋紙

十式枚干、鉄炮研、手伝新八・藤左

衛門

作之丞 善藏

寧藏 彦之丞

一 廿七日

未明方大曇リ、キリシフリ終日不晴候、鯺鮓粉九升ウチ、足輕市郎衛門・要藏・栄次郎・兵藏・要次郎・庄介・志津麿・五左衛門等ヲ呼申候

兵藏 栄次郎

一 廿八日

未明方曇リ、四ツ頃方晴レ始メ、八ツ頃ニナリ而ハ快晴ニ成候、此日銅(銅)

乱廿五兩(兩)、革、火繩、笠、大筒之薬

等干申候、庄介・要藏

志津麿方鯨一ト筋貫イ

要次郎 要七

一 廿三日

未明方大曇リ、四ツ頃方小雨降り始

メ九ツ半頃方止ム、終日不晴、鯨船

出船アレトモ獵なし

介八 萬四郎

一 廿九日

未明方沖合霞ニ而不見、空薄曇リ、

新八 藤左衛門

一 廿四日

弥次衛門 要藏

*大谷川堀…勘衛門が六月二十五日に聞いたという大谷川掘割にかかる話は、文政七年に芳賀郡小貫村名主が江戸の町人の企画を譲り受けて立案し、同九年幕府に願い出たものの戻され、十一年三月に再度願い出た。このときの幕府役人の動向であろうか(平野哲也「近世における内陸農村と海村の地域間交流と生業連関」)。

四ツ頃方空沖共晴レ快晴ニ成ル、廿八日鯉沢山揚リ、式千程釣レ申候、尤直段百七拾五文之由
彦兵衛方鯉一ト筋貫イ申候

我等廻リ
一 晦日

彦八郎
平兵衛

未明方大曇リ、チリく雨、八ツ前降ル、七ツ頃方大雨ニナリ、夜九ツ頃迄降り止ム

(七月)

小宅番 小
一 朔日

藤蔵
栄介

未明方大曇リ候而終日不晴、尤雨も不降、南風ニ而海大荒ニ而出船なし

一 二日

七五郎
朝夕不寄
寧蔵

未明方天気能候得共、曇晴レ度々曇リ晴申候、尤フツカケ六七度モ有リ、鯉船出ル

一 三日

彦之丞
善蔵

未明方天気能候得共曇リ候、大南風吹、七ツ頃方快晴ニ成ル、門奈勝五郎殿仙臺御使帰由ニ而七ツ頃川尻ヲ通行致候、ヒトエ物洗濯ニ市郎衛門へ頼申候

一 四日

介八
萬四郎

未明方天気能候得共薄曇リ、九ツ頃方晴レ申候、源次小木津川へ鮎取ニ行、山辺等ヲ取リ候

一 五日

弥次衛門
庄介

未明方快晴ニ候、後藤市郎兵衛・田崎庄衛門立寄申候
鯉船沢山出船有_(下脱カ)レモ不獵、トガ人三人御城下引

一 六日

市郎衛門
要蔵

未明方曇リ、五ツ半頃雨少々降り無間も止ム、日暮迄曇リ空
土木内孫死亡之為知相届ク
小宅儀友部ノ間柄ニ不幸有故八ツ頃方友部へ行

一 七日

吉郎衛門
清三郎

未明方薄曇リ、四ツ頃方晴レ申候、尤七ツ半頃方亦々薄曇リ成候、志津磨方ヲハキ五ツ貫イ申候
小木津平兵衛方餅壹枚貫イ候

一 八日

善蔵
栄次郎

未明方快晴ニ候、八ツ半頃方黒雲出曇リ、夜入晴レ申候、此日方投網之袋切敷キ足ニ初メ石戸鑄直シ申候
アンハ明神ヲハヤシ申候

一九日

要七通番
弥次衛門
朝計寄
要次郎

程釣ル、志津磨^カ鯉一ト筋貫

彦之丞
作之丞

* 山部…多賀郡山部村
* ダラク船…不詳

未明方薄曇リ、四ツ頃誠ニ小雨降
リ、無間も雨止ム、夜入五ツ頃ザツ
ト雨降り来リ止ム

鯉船日々出候得共無獵ナリ

一 十日

新八代
藤左衛門
吉衛門

一 十五日

善藏通番
栄介
八

未明方雨降り始メ終日夜入迄降続キ
明方迄降り、地引割ニ付小松崎方配
符来ル

一 十一日

藤左衛門通番
吉衛門

我等月番
一 十六日

萬四郎
弥次衛門

宵方降り続キ五ツ半頃雨止ム、乍去
空曇リ八ツ頃方降り来リ無間も止、
空不晴、山部^{*}煙草入屋来ル

一 十二日

〔 栄介代 善藏 〕

一 十七日

庄介
市郎衛門

未明方快晴ニ候、五ツ頃方曇出、九
ツ頃寔ニ小雨降り来リ無間モ止ム、
従夫終日薄曇リ、夜入快晴ニ成、善
藏方ウキ□ヲ貰申候

一 十三日

七五郎
貞藏

未明方快晴ニ候、尤雷晴ニ而此之方
遠クニ而少々鳴ル、従夫曇リ空ニ
入、次第二晴申候、ダラク船^{*}鯉三百
取

* 山部…多賀郡山部村
* 平善寺…平善院。友部村にある曹洞宗の
寺院。天保期水戸藩の仏教弾圧により破
却。
* 茅根村…久慈郡。常陸太田市

一 十八日

未明方快晴ニ候、中山備前守*殿切腹致候由風説ニ初メ承リ申候、在所方次郎介来ル

要蔵
吉郎衛門

一 廿四日

出シ申候、終日不晴候、夜入快晴ニ成ル
未明方快晴ニ候得共至極涼敷日候、北風海白波立候得共鯉船出船有、少々釣来ル

栄介
七五郎

一 十九日

未明方快晴候得共次第ニ曇リ、八ツ頃ザツト雨降り来リ早速ニ止ム、夜入迄薄曇リニ候

清三郎
兵蔵

一 廿五日

未明方快晴ニ候、鯉船出船釣来ル、小宅友部へ行、枝川ニ而手打沙汰致候

貞丞
彦之蔵

一 廿日 次郎介来ル

未明方快晴ニ候

栄次郎
要次郎代
要七

一 廿六日

未明方快晴ニ候、雷晴ニ而雷式ツ三ツ鳴ル、日棚村庄屋女房田中々方辰リ之由ニ而立寄申候

善蔵

一 廿一日

未明方快晴ニ候得共七ツ頃方雷晴ニ曇リ、尤遠クニ而雷鳴ナリ、従夫夜入候而雷掛候得共少々鳴ル、夜九ツ頃ニナリ止
介八方鮑ヲ貰イ候

要七通番
要次郎
吉衛門通番
新八

一 廿七日

未明方薄曇リ、此日小木津寺ニ而神崎かん居葬式有之、大勢集リ賑合之由ニ而候、源次友部行

介八
萬四郎

一 廿二日

未明方曇リ、八ツ頃方快晴ニナリ申候、次郎介帰宅、日棚村弥一兵衛女房立寄申候、市郎衛門悴真附来リ申候

新八
藤左衛門

一 廿八日

未明方曇リ、終日不晴、夜入雨少々降来リ、早速ニ止メ、志津摩方鯉半筋モライ申候

弥次衛門
要蔵

一 廿三日

未明方雨降り始め、佐野氏へ書状仕

平兵衛
藤蔵

一 廿九日

未明方誠ニ快晴ニ候、八ツ半頃方雷晴之模様ニ而曇リ雨降ル、此日アツ

市郎衛門
要蔵

*中山備前守…水戸藩附家老松岡中山氏十
一代中山信情のことか。文政十一年七月
十四日卒。享年三十四。
*小木津寺…小木津村の真言宗稲峰寺のこ
とか。天保期に廢寺処分。

キ事タエカタク候

此日方夜廻リ相止メニ成

(八月)

一 朔日

未明方天气能候、此日方海岸朝夕廻
リニ候、鯉胤無シ、友部管手^{*}来る

吉郎衛門
清三郎

一 二日

未明方曇リ、八ツ頃方降り来リ、夜
明迄続ク

兵藏
栄次郎

一 三日

宵日方雨降続、終日雨降ル、御城下
方来志津摩所へ来ル者ニ手紙頼、在
所遣ス

要七
要次郎

一 四日

未明方大曇リ、源次友部へ米取ニ行
ク、終日夜ニ入而も不晴

新八
吉衛門

一 五日

未明方大曇リニ而少雨降り、終日
少々宛降り申候、夜入而も不止

藤左衛門
平兵衛

一 六日

未明方雨降り終日不止、夜ニ入而も
大降り、出船なし

藤藏
次左衛門

一 七日

未明方大曇リニ候得共雨不降、余程

栄介
朝計寄
七五郎

一 八日

強キ北風吹ク、波大キニ立

寧藏
朝計寄
彦之丞

一 九日

未明方天气能候得共曇リ、四ツ頃方
八ツ頃迄ハ晴レ申候、従夫薄曇リ成
候、波立出船なし、市郎衛門来リ暫
ク咄ス

作之丞
朝計寄
善藏

一 十日

未明方快晴ニ候、日棚方草木ノ虫ニ
かんノ葉届ク、早速ニ手紙ニ而仕
出、作之丞頼申候

介八
朝計立寄
万次郎

一 十一日

未明方天气能候得共五ツ頃方海中へ
霞少ノ間有リ、終日曇リ夕方方少雨
「」
夜入五ツ頃方雨降初メ夜八ツ頃止

「」
庄介

一 十二日

未明方快晴ニ候、南イキニ而甚タア
ツク候、浪立ニ而出船なし、源次・
庄介投網打ニ夜ル行

市郎衛門
要藏

*管手…不詳

一 十三日

未明方大曇り、八ツ頃方快晴ニ成
ル、従夫レ源次ヲ連レ十王川へ投網
打ニ行、地引有リ、善蔵ニユハシヲ
貰

吉郎衛門
清三郎

一 十八日

未明方天氣候得共薄曇り、次第二大
曇り成り、寔ニ少々降り来リ早速ニ
止ム、源次、五左衛門行、ケムダシ
ヲフク

藤蔵
次左衛門

*羽部・羽部源三郎のことか
*西丸勇次郎・大津村の郷士

一 十四日

未明方薄曇り、四ツ頃方快晴ニ成
ル、地引有リ、次郎介帰宅致候、尤
在所方味噌手紙届ク

兵蔵
栄次郎

一 十九日

未明方曇り、終日不晴候、尤暮方ヨ
リ空晴申候
此日モ源次五左衛門へ手伝ニ行申候

栄介
七五郎

一 十五日

未明方薄曇り、終日不晴、此日陣ノ
平ニ而足輕合致候、我等友部へ行、
尤藤蔵ヲ同道致候
夜ニ入而雨降り

要次郎
要七

一 廿日

未明方快晴ニ候、志津摩十八日ニ御
城下へ行、雨天ニ付逗留ニ而廿日八
ツ頃帰宅致候、源次此日モ五左衛門
へ行ク、在所倉太方書状届、あふら
とトク

寧蔵
彦之丞

月番
一 十六日

未明方快晴ニ候、此日後藤市郎兵衛
立寄り、羽部方書状届ク、折橋村栄
次郎方ツケウリ六十貫イ申候

新八
吉衛門

一 後 廿二日

未明方快晴ニ候、西丸勇次郎*河原子
方戻リ之由ニ与立寄申候、佐野七郎
兵衛見舞ニ来ル、土産ニあふら忒
本、扇子忒本貰イ候

介八
萬四郎

一 十七日

未明方天氣候、北風吹サムク候、
鯉船出候得共更ニ獵なし
源次、五左衛門へ手伝行、ケムダシ
ヲフク

藤左衛門
平兵衛

一 前 廿一日

未明方天氣候、此日佐野氏川尻へ
着ニ成ル、足輕共穴田臺迄ニ迎ニ出

作之丞
善蔵

申候、尤佐野ツキハ七ツ頃、酢屋へ宿陣致候

弥次衛門 庄介

一 廿三日

未明方快晴ニ候、此日石濱村瓦ニ而ならし、佐野氏致候、大南風ニ而アツキ事大暑同様ニ候

市郎衛門 要蔵

一 廿四日

未明方快晴ニ候、此日モ南風ニ而甚タアツシ、嫁孫等日棚へ行由ニ而寄リ申候、新穀米持参致候、佐野見舞ニ来ル、羽部源三郎^{*}来ル

吉「」 清三郎

一 廿五日

未明方大曇リ候得共雨不降、此日佐野氏帰陣ニ成、地引ニ而あぢ等少々取候、尺^(歌題)か堂庄三郎・善九郎日棚方歸リ申候、羽部酢屋ニ泊リ

兵蔵 栄次郎

一 廿六日

未明方曇リ候得共雨不降、小宅屋前嘶ニ来リ、亦夜入テ来ル、羽部泊リ候

要次郎 要七

一 廿七日

未明方曇リ朝少々雨降ル、地引有、鱒少々、萬四郎方貰イ候
羽部戻リ申候

新八

一 廿八日

未明方快晴ニ候、此日地引少々有リ、■かんをんへ参詣致候

吉衛門 藤左衛門 平兵衛

一 廿九日

未明方快晴ニ候、釈迦堂村庄三郎来ル、此日小麦ヲ蒔、源次・庄三郎兩人十王川投網打ニ行、二三十取

藤蔵 次左衛門

一 晦日

未明方雨降り始メ終日夜ニ入而も不止、在所出立之先触ヲ出ス

九月小 朔日 小宅番

栄介 七五郎

未明方雨降り始メ終日夜明迄大雨ニ降続キ申候

一 一二日

宵方降り続キ朝五ツ頃迄小雨降り止ム、終日大曇リ夜ニ入而も不晴候、源次友部へ行白米三升受取来ル

寧蔵 彦之丞 善丞

一 一三日

未明方薄曇リ、此日在所へ行、湯岐^{*}入湯御暇願相濟、湯岐江出立届ケ之儀、七日発足之届ニ金沢御陣屋へ届ケ申候、尤実ニ出立之儀九月九日在所ニ立ニ而大田村羽部源三郎^{*}ニ一宿、翌十日大中村白石平八郎^{*}へ一泊致、翌日十一日ニ湯岐へ着致候、十

*羽部源三郎…太田村郷士
*湯岐…ゆじまた。陸奥国白川郡湯岐村
(福島県東白川郡塙町)
*金沢御陣屋…石神組郡奉行所が石神外宿村から移転し、金沢村に置かれた。日上市東大沼町一丁目六
*白石平八郎…郷士

*佐野三七郎…不詳

五之朝湯岐出立ニ而又大中村白石平八郎へ一宿致、十六日ニ在所へ帰宅致候、且又上へ申出之所ハ九月十七日ニ入湯方帰宅し趣ニ金沢御陣へ武藤頼届ケ申候、帰宅後在所ニ逗留致居リ川尻へ九月廿五日ニ帰宅致候

一 三日 日曇空、志津摩御城下行

吉郎衛門
清三郎

未明方天気能候
志津摩御城下夜入而帰宅、投網持参致候

廻リ

一 四日

栄次郎
兵藏

未明方雨降り始め、四ツ頃方天気ニ成ル

未明方快晴ニ候

源次、五左衛門へ手伝ニ行

要次郎通番
要藏
要七

一 廿七日

未明方快晴ニ候、兼子見舞ニ来ル、源次友部へ米取行

「彦之丞」

一 五日

一 廿八日 未明方快晴ニ候
善作之丞
善藏

未明方大曇り、五ツ半頃方雨降り始め候、終日夜入而モ降り続キ、大雨ニ而明方迄ふり申候
佐野三七郎^{*}隣へ来ル、連レ式人有リ、都合三人ニ而来ル

新八
吉衛門

一 廿九日

未明方快晴ニ候、地引ニ而ユハシトレ申候、志津磨方小サカ貰候

介八代
彦之丞
萬四郎

一 六日

宵方曇り空ニ而少々宛終日降ル、佐野三七郎連レ式人、小宅等迄介八へ呼レ而行由承リ候、石濱村ニ出火ニ而家敷三軒焼候

(十月)

小宅へ通番ヲ勤メ申候

弥次衛門
庄介

一 七日 未明方快晴ニ候、日棚村彦八郎親迎ニ介川迄行由ニ而立寄申候、弥一兵衛儀田中々方帰宅之由ニ而立寄

未明方雨降り始め夜入迄不止、所衛門来ル、地引ニ而ユハシトレ候

一 二日

宵方雨降続キ四ツ頃迄降り雨止、終

要藏代
要次郎
市郎衛門

藤左衛門
彦八郎

亥猪之餅ヲ善九郎持来ル

一 八日

平兵衛
藤藏

荷送リトシテ組役作之丞并要次郎附
添ニ而此日川尻出立致候、此日方笠
納ニ遣シ候間不為笠冠ニ海岸為廻候

*亥猪…いのこ。げんちよとも。十月の亥
の日の祝い。餅をついて子孫の繁栄を祈
る。

未明方快晴ニ候、此日宵日ニ而候得
共川尻へ亥猪之祝引申候

一 九日

次左衛門
七五郎

未明方大曇リ、終日不晴候得共不降
候

吉郎衛門
清三郎

未明方快晴ニ候、此日小宅ノ客人北
筋へ引由ニ而立ニ成ル、亥猪之祝引

一 十日

未明方快晴ニ候

彦之丞へ通番
介八
貞藏

月番
一 十六日

越タニ而ユハシ少々有、善藏方少々
貫イ申候

栄次郎
兵藏

未明方天气能候得者薄曇リニテ始日
不晴候、左馬之介来ル

一 十一日

作之丞
善藏

一 十七日

未明方快晴ニ候、此日モ越下船出

新要
八七

一 十二日

未明方曇リ候得共七ツ頃迄不降、七
ツ半頃方降り始メ候、源次、五左衛
門へ麦蒔手伝、此日左馬之介帰宅致
候

朝計□
萬四郎
介八

一 十八日

未明方快晴ニ候、御引替笠八ツ時着
ニ成、尤要次郎暫ク後レ而着ニ成、
作之丞儀者介川ニ而隙取ニ而夜入而
着ニ成

吉衛門
藤左衛門

一 十三日

十二日之七ツ半頃方雨降り始メ、夜
中降り夜明而も不止、四ツ半頃迄降
り雨止ミ候得共空不晴、暮方方天气
ニ成

弥次衛門
庄介

一 十九日

未明方快晴ニ成、此日書状御城下へ
仕出申候、櫻村来ル、夜入而戻リ候

彦八郎
平兵衛

一 十四日

未明方快晴ニ候、御笠引替ニ付才料

吉郎衛門
要藏

一 廿日

未明方快晴ニ候、八ツ頃方曇リ空ニ
成、七ツ頃方雨降り始メ夜九ツ頃迄
降り、従夫快晴ニ成候

要次郎代
作之丞
藤藏

未明方快晴ニ候
志津摩方煮候肴ヲ寔ニ少々貫申候

吉郎衛門

*れんて…エイの一種（浅野長雄「茨城県海産魚類の方言について」『魚類学雑誌』V.11）。

一 廻リ
廿一日

次左衛門
七五郎

一 廿七日

清三郎
兵藏

未明方快晴ニ候

未明方快晴ニ候

下り大船北風故沖合ニ式艘掛リ居リ候

志津摩方れんて小物壱ツ貫申候

一 廿二日

寧藏
彦之丞

一 廿八日

未明方天氣能候

栄次郎
作之丞通番

未明方快晴ニ候所五ツ半頃方曇リニ成甚寒ク候、忠兵衛昨夜帰宅之由貞藏ニ申シ遣ス、掛リ居リ候船夜入而出帆

未明方天氣能候

要次郎
要七

一 廿三日

善藏
介八

一 廿九日

未明方天氣能候

要次郎
要七

未明方天氣ニ候得共五ツ半頃方雨降り始メ九ツ頃方止、終日曇リ夜入迄、忠兵衛来ル、志津摩来ル

一 晦日
未明方天氣候得共薄曇リ、大根運ニ源次折笠村栄次郎宅へ行、夜ニ入雷鳴ル、雨降り四ツ頃迄ニ雷止、雨ハ明ケ迄ニ止ム

新八
吉衛門

一 廿四日

萬四郎
弥次衛門

未明方天氣能候得共終日薄曇リニ御座候、此日廻船沢山通り申候、源次友部へ米取行

小宅月番 霜月大
一 朔日
未明方天氣成り候

藤左衛門
彦八郎

一 廿五日

庄介

一 二日

未明方快晴ニ候、夕方ニ成曇リ出、少々降り来リ、早速ニ雨止ミ申候

未明方快晴ニ候、我等友部へ行、終

平兵衛
藤藏

一 廻リ
廿六日

〔 〕

日遊歸り、此川尻御年貢取申候

一 三日

次左衛門
七五郎

一 九日

未明方天気能候、尤薄曇り二候
所衛門来ル

吉衛門

未明方天気能候得共大曇り、夜二入
而雨降始夜雨止、大船五艘掛り候、
尤式艘ハ千石餘モ積候様ニ見候

一 四日

寧藏
彦之丞

一 十日

未明方曇り候得共七ツ頃迄二晴レ候、
五左衛門頼母子ニ付源次手伝ニ行

兵藏

未明方快晴候、日棚村倉太郎田中々
へ行由ニ而寄、佐々亀之介義御預ケ
ニ成候由、尤預り人御先手近藤三八
郎之由

一 五日

善藏
介八

一 十一日

未明方天気能、尤四ツ頃方大曇りニ
成ル、をみ恵日棚へ行、介藏・介次
郎兩人送り来り、川尻方戻ル
繩船*相応ニ有

要次郎
要七

未明方快晴候、地引出候、源次友部
へ鉄炮持行、所衛門へ頼ム
日棚村倉太寄

小宅代
一 六日

作之丞
萬四郎

一 十二日

未明方大曇り八ツ頃雨降始、夜入候
而降り、夜九ツ頃止ム、此日源次島
へ手入、志津ま方□□貫候、栄介出
勤届ケニ出ル

新八
吉衛門

未明方快晴ニ候
小宅御城下行、久兵衛来ル
ハモ志本志津マ貫

一 七日

弥次衛門
庄介

一 十三日

未明方大曇り、四ツ頃方次第二晴
レ、八ツ頃方快晴ニ成、西風大吹御
座候、志津摩方ハモ貫イ候

藤左衛門
彦八郎

未明方大曇りニ而七ツ半頃少々降り
来り止ム、暮方又降り来り六ツ半頃
止ム、日棚村倉太田中々□戻り之由
ニ而寄申候

一 八日

要藏
市郎衛門

一 十四日

未明方快晴ニ候、此日北風ニ而甚々
サムク候、介藏日棚へ行由ニ而寄り
申候

平兵衛

* 繩船：延繩漁を行う船。

未明方快晴ニ候、北風ニ而甚タサム
ク候、地引出候得共フタバソリヤウ
等ト有リ

藤 藏

一 廿日

未明方天気能候得共四ツ頃方大曇リ
ニ成ル、八ツ頃方快晴成、友部村医
者玄蕃婿取婚姻ニ付小宅権之丞玄蕃
へ為呼行、翌日四ツ頃戻リ候

市郎衛門
庄 介

一 十五日

未明方天気候得共北風ニ而サムク候、
白山大権現^{*}祭礼ニ候

次左衛門
栄 介

一 廿一日

未明方快晴ニ候、此日傘へ油ヲ引

要 藏
吉郎衛門

我等番

一 十六日

未明方大曇リ、終日不晴、羽部源三
郎立寄り候、山部ヨリ煙草入拵賃届
キ候、夜七ツ頃方雨降り始メ翌日迄
降候

七五郎
貞 藏

小宅番
一 廿二日

未明方快晴ニ候得共四ツ頃方薄曇リ
ニ成リ候

清三郎
兵 藏

一 十七日

宵日方終日降、夜入八ツ頃雨止ム、
羽部氏来泊リ申候

彦之丞
作之丞

小宅廻リ
一 廿三日

未明方快晴ニ候、四ツ頃方大曇リニ
成候「」

栄次郎代
弥次衛門

一 十八日

未明方快晴ニ候、源次友部へ米取ニ
行ク、此日介藏日棚方戻リ懸ニ而泊
リ候、日棚方蜆蒸物ヲ小重へ一重貰
イ申候

善 藏
介 八

一 廿四日

未明方大曇リニ候得共終日不晴、尤
少々降り、介藏日棚へ迎ニ行由ニ而
立寄申候、土木内方ふナ少々貰イ申
候

新 八

一 十九日

未明方薄曇リ、此日源三郎戻リ申
候、介藏モ戻リ申候、大橋村^{*}半介小
紙巻状以テ立寄申候、小宅八ツ頃帰
リ、尤下孫^{*}二十八日夜泊リ候由

萬四郎
弥次衛門

一 廿五日

大北風ニ而海大アレニ候
山下氏方手紙届ク

吉衛門代
新 八
藤左衛門

*白山大権現…川尻村字白山（日立市川尻町五丁目）にあった。

*大橋村…久慈郡。天保期に南の田中々村と統合、大和田村となる。田中々と共に交代で宿駅を勤める。

*下孫…多賀郡下孫村（日立市多賀町）。岩城海道の宿場。森山・大沼と助川の間位置する。

未明方薄曇り、五ツ半頃方晴申候、
此日大波^{（マ）}ニ候、介蔵日棚へ迎イ行、
尤味増持来ル

一 廿六日

彦八郎
平兵衛

未明方天候得共終日薄曇り、繩船
出獵有リ申候

一 二日

弥次衛門
庄介

未明方快晴ニ候、此日モ大波ニ而海
荒申候、日棚方をみ恵戻申候

栄介御城下へ行

一 廿七日

藤蔵
次左衛門

未明方快晴候、要蔵女房イモ持行ク
貫イ候、所衛門来ル、日棚村倉太田
中々方戻リ立寄、又安之進モ来ル

一 廿八日

栄介代
貞蔵
七五郎

未明方快晴ニ候、此日栄介御城下方
帰宅致候

一 廿九日

貞蔵通番
栄介
彦之丞

未明方曇り、五ツ頃方快晴ニ成ル、
貞蔵坂下^{*}へ行由ニ而立寄り申候

一 晦日

作之丞代
要七
善蔵

未明方快晴ニ候、我等友部へ行、五
左衛門へ源次手伝ニ行、五左衛門方
蕎麦餅等ヲ貫申候

極月小
一 朔日

介八

一 五日

未明方快晴ニ成、角坂木持参ル、忠

兵蔵
要次郎

萬四郎代
善蔵

*坂下…岩城海道石名坂村から南の久慈川
までの低地をさすか。

*後田村…いわき市。陸奥国菊多郡。真言
宗の宝徳院がある。

*平瀧…常陸国多賀郡平瀧村（茨城県北茨
城市）

*押送り…帆を用いず、櫓を押しして船を進
めること

*城米…水戸の城に納める年貢米

兵衛来ル、志津摩方小肴貫イ候、次郎介来ル

萬四郎
新八

西風吹ク、雇イ船三四艘来ル

貞蔵
彦之丞

*日棚村では享和三年（一八〇三）から陶器製造が始る（『北茨城市史上巻』）。

未明方快晴ニ候、萬四郎ハ作之丞為頼、要七へ通番ニ出候由ニ候、此日日棚へ次郎介（瀬貫カ）瀬賣ニ行、泊リ

「
藤左衛門
」

未明方薄曇リ、此日風モ少々有ル、繩船出船有リ、折笠村弥次衛門ヲ頼瀬戸申付而遣シ、尤駄賃三百五十文ナリ、次郎介瀬戸付来ル、むなしク戻ル

作之丞
萬四郎

未明方薄曇リ、四ツ頃方快晴ニ成、又八ツ半頃方薄曇、朝之内ハ南風、八ツ頃方北風ニ成ル、南方廻船式十艘餘北へ通り申候

彦八郎
平兵衛

未明方大曇リ、夜入而モ不晴レ、我等友部へ行、此日石町村庄屋来ル、靱請取手形相渡し金子少々受取

七五郎代
作之丞
介八

次郎介日棚方瀬戸老駄付来ル、日棚彦八是迄付来リ呉候

作之丞
藤蔵

未明方大曇リ、終日不晴、夜入而快晴ニ成ル、東條七三郎・大場濱四郎・弓削小次郎・矢野縫四郎殿右四人油所預ケニ成ル

弥次衛門通番

未明方快晴ニ候、次郎介戻リ申候、此日初而御城米積ミ始メ申候、尤筈押送り并雇イ船三艘来ル、大西風吹ク

志津摩方小ヒラメ沓ツ、ホウゴ忒ツ貫候

次左衛門
栄介

未明方大曇リ、廻船ヲ御雇ニ而御城米積、此日六艘来ル

清三郎
庄介

未明方快晴ニ候、此日モ城米積ミ、

一 十五日

市郎衛門
要藏代
七

未明方快晴二候、宵日之六艘之船へ
御城米積仕舞申候、額田方奉公人來
り泊り

替薄縁ヲ三枚コシライサセテ十八日
ニ仕舞申候

佐野三七郎ヲ迎ニ平瀉へ藤左衛門行、
日戻リニ致候

一 廿日

吉郎衛門
清三郎

未明方快晴二候、朝之内友部へ行人
召抱而戻り申候、夫レ故額田方來ル
人空ク不定歸し候、千石積ミ位之大
船掛ル、外ニ一艘カ、リ申候

未明方快晴二候、大西風吹ク、大船
押送り等ニ而八艘此沖へ掛り申候

一 廿一日

「
藤左衛門
藤藏

月番
一 十七日

兵藏
栄次郎

未明方快晴二候、晝屋來ル、雇船式
艘ニ御城米積出帆致候、尤北風吹ク

未明方快晴二候得共九ツ頃方シクレ
而薄曇リナリ候、川尻郷藏*方御城米
積切ニ成り候由承り申候

一 廿二日

次左衛門
栄介

一 十八日

要七通番
要次郎
要藏

未明方快晴、田中々久衛門日棚瀬戸
買ニ行由ニ而立寄申候、日棚村彦八
麦ヲ付來ル、尤飯米買■分ニ金貳両
渡シ遣シ候、次郎介モ日棚へ瀬戸買
ニ行由ニ而一宿致候

我等石屋喜兵衛ニ為頼墨坪ヲ■細工
致遣ス
久右衛門日棚方戻リ之由ニ而夜五ツ
頃方寄り咄シ居リ、夜四ツ頃立、田
中々へ戻り候

一 廿三日

七五郎
貞藏

一 十九日

新八
吉衛門

未明方大曇リ、五ツ頃方快晴ニ成
ル、次郎介日棚村へ行、晝拾三杖表

未明方快晴二候、源次カ兄來ル、佐
野三七郎ヲ迎ニ足輕要藏平瀉へ行、
源次友部へ米取行ク、田中々久右衛

*川尻郷藏…折笠村御番山に彫られた貯蔵
穴のことか。『村絵図にみる日立』史料

門父子ニ而瀬戸付来ル

此日九ツ頃方曇リ大雪降リヨホタマ

リ申候、尤七ツ頃方止、夜入天気ニ

成り申候、山三郎水方帰宅致候

日棚方彦八ト外之者式人ニ而瀬戸付

来ル

北風吹ク、九ツ頃方大曇リ八ツ頃方

雨少々フリ来ル

海荒出船無

一 廿八日

未明方快晴ニ候、家内来ル、尤左馬

之介送り来り候、大西風吹ク

一 大晦日

未明方快晴ニ候、友部へ為頼候刀ヲ

友作ニ遣ス、志津磨方小あかうクロ

カウハモ等ヲ貰申候

*君田…上君田村と下君田村があるが、い

ずれかは不詳。よつ川も不詳。

一 廿四日

未明方快晴ニ候、石師町村市立申

候、角板出来アカリ申候、次郎介日

棚方戻り一宿致候

七五郎
彦之丞

清三郎
兵藏

一 廿五日

未明方快晴ニ候、我等友部へ行、奉

公人ヲ抱申候次郎介戻り申候、佐野

三七郎廿四日夜足洗ニ一宿之由ニ而

四ツ頃川尻へ附申候、従夫出立ニ而

御城下へ戻り申候

糶払代不残納候

要蔵モ戻り候

善藏
介八

文政十二年丑ノ正月

一 元日

未明方快晴ニ候得共六ツ半頃方東

南方雲出シクレ候所、四ツ半頃方晴

レ申候、足輕共年始ニ来ル、市郎衛

門一、彦八郎二、弥次衛門三、善蔵

四、作之丞五ナリ

「
要次郎
」

一 廿六日

未明方雨降り始メ終日不止、夜ニ入

迄降ル、夜九ツ頃方空晴申候

海荒出船出航なし

萬四郎
弥次衛門通番
栄次郎

一 二日

未明方快晴ニ候、此日日棚村弥一兵

衛女房田中々藤兵衛極急病□□而見

舞ニ行由ニ而立寄申候

新要
八七

一 廿七日

未明方快晴ニ候、此日源次君田よつ

川兄之所へ行、此日家来友作来ル、

庄介
市郎衛門

一 □飯 一重 「折笠」
 一 赤飯 一□ □三□
 一 同 要 要 七
 一 餅半枚 庄 介
 一 同 市郎衛門
 一 同 要次郎
 一 同 弥次郎
 一 赤飯 栄次郎
 一 同 藤蔵
 一 同 吉衛門

参考文献
 『日上市史 上巻』 『十王町史 通史
 編』

編集・制作 古文書学習会
 2023年8月16日